

平成28年度

# シラバス



3 学 年

北海道おとねっふ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語表現	学年	3 学年
教材	教科書	国語表現		単位数	3
	副教材	パスポート国語必携		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 小テストを行う他、課題の提出があります。				
	2 グループ学習などを通じた言語活動で国語力を育てる他、国語常識の基礎を学習します。				
	3 相互作品鑑賞・添削をしたり、公募コンクールに応募します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○書いて伝える ○メディアを駆使する ○自己PRと面接	・国語表現の学習について ・整った文章を書く ・通信文を書き分ける ・志望動機をまとめよう	学習規律の徹底
		○表現を楽しむ	・詩歌を楽しむ	
	5	○声とコミュニケーション ○書いて伝える	・リーダーズシアターを開こう ・わかりやすい文を書く	コンクールへの応募
		○小論文・レポート入門	・小論文とは何か ・資料を読み取って書く	
	6	○表現を楽しむ	・魅力的なポスターを作ろう	[中間考査] ノート提出 コンクールへの応募
	7	○小論文・レポート入門	・発想を広げて書くを広げて書く	
	8	○表現を楽しむ ○声とコミュニケーション	・言葉で遊ぶ ・ショートスピーチをしよう	コンクールへの応募
		○会話・議論・発表	・プレゼンテーションの工夫	[期末考査] ノート提出
	9			
前期目標				
後	10	○メディアを駆使する	・メディアと情報 ・発想を広げて書く	コンクールへの応募
	11	○会話・議論・発表 ○表現を楽しむ	・議論して結論を出す ・演説合戦に挑戦	
		○小論文・レポート入門	・論文を書くために	[学年末考査] ノート提出
	1	○小論文・レポート入門	・論文を書くために	
	2			
	3			
後期目標				

・定期考査・小テストの成績、課題の内容や提出状況。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	学年	3学年
教材	教科書	高等学校世界史A 最新版(清水書院)		単位数	2
	副教材	高等学校世界史A 最新版ノート・問題集(清水書院)		履修区分	共通
学習の目標	1 世界の歴史の基本的事項を当時の時代背景や日本の歴史と関連づけて理解します。				
	2 記述的知識だけではなく、歴史に対する多面的な視点を養います。				
	3 時代毎の世界の国々の位置関係や国名等を身につけます。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、17・18世紀以前の世界の歴史を学びます。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、17・18世紀以後の世界の歴史を学びます。				
	3 学期毎にレポート課題を行い、単元毎にワークを使用し、理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○東アジア世界	・世界史Aの学習について ・中国文明 ・東アジアの文化圏の形成	※単元毎にワークを提出します。
	5	○南、東南アジア世界	・古代インド文明 ・ヒンドゥ教とイスラーム教 ・東南アジア文明	・小テスト
	6	○イスラーム世界	・都市文明の伝統 ・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の拡大	・中間考查 ・ファイル提出
	7	○ヨーロッパ世界	・ギリシア、ローマ文明 ・東西ヨーロッパの成立 ・西ヨーロッパの成長と変動	
	8	○大航海時代	・大航海時代 ・アメリカ植民地の誕生	
	9	○課題レポート I	・各国の歴史を日本との結びつきから調べてレポートに表現します。	・期末考查 ・ファイル提出 ・課題レポート I

前期目標

後	10	○17・18世紀の世界	・清とロシア ・イスラーム世界 ・ヨーロッパの主権国家体制	・小テスト
	11	○ 欧米近代社会の展開	・ヨーロッパ諸国の世界進出 ・イギリス産業革命 ・アメリカ合衆国の成立	
	12	○ アジア・アフリカの変貌	・フランス革命 ・自由主義運動、帝国主義	・中間考查 ・ファイル提出
	1		・西アジア～東南アジアの変貌 ・清朝末期の中国と日本の近代化 ・アジア諸国の民族運動	
	2	○世界戦争の時代	・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制 ・世界恐慌とファシズムの台頭	・期末考查 ・ファイル提出
	3	○米ソ冷戦 ○課題レポート II	・第二次世界大戦 ・冷戦の展開とその様子 ・資本主義と社会主義陣営の違いをレポートで表現します。	

後期目標

評価方法	・定期考查・小テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートやワークシートの内容、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・地理歴史科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。	
評価の観点	【関意態】	歴史に対する関心と課題意識を持っているか。積極的に授業に参加しているか。
	【思判表】	歴史を多面的な視点で捉えているか。レポートの表現方法や内容が適切か。
	【技能】	資料の選択・活用が適性か。時代毎の国名や位置を把握できているか。
	【知理】	諸地域の歴史過程の基本的事項を身につけているか。

教科名	数学	科目名	数学A	学年	3学年
教材	教科書	新編 数学A (東京書籍)		単位数	2
	副教材	ニューアシスト 新編 数学I+A (東京書籍)		履修区分	共通
学習の目標	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。				
	2 場合の数と確率を事象の考察に活用できるようにする。				
	3 整数や図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、集合、場合の数、確率を学ぶ。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、整数のさまざまな性質を学ぶ。				
	3 週ごとに週末課題をワークから出して提出させ、学習習慣を確立しつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○集合と場合の数	・数学Aの学習について ・集合と要素の個数	*年間を通して小テストを行っていく
	5	○集合と場合の数	・数え上げの原則 ・順列	
	6	○集合と場合の数 ○確率とその基本性質	・組合せ ・事象と確率	・中間考査 ・ノート提出
	7	○確率とその基本性質	・確率の基本性質	
	8	○いろいろな確率	・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	
	9	○いろいろな確率	・反復試行の確率 ・条件つき確率	・期末考査 ・ノート提出
前期目標				
後	10	○整数の性質	・約数と倍数、素因数分解	
	11	○ユークリッドの互除法と不定方程式	・除法の性質と整数の分類 ・ユークリッドの互除法	・中間考査 ・ノート提出
	12	○ユークリッドの互除法と不定方程式	・不定方程式	
	1	○整数の性質の利用	・記数法	・学年末考査
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストの成績、週末課題やノートの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価する。</li> <li>・数学科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。</li> </ul>		
評価の観点	【関・意・態】	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしているか。	
	【数学的見方】	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えているか。	
	【数学的技能】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。	
	【知・理】	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけているか。	

教科名	理科	科目名	地学基礎	学年	3学年
教材	教科書	地学基礎		単位数	2
	副教材	新課程 リードLightノート 地学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。				
	2 観察・実験を通して、地学的に探究する能力と態度を身につける。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、地学についての基本的な原理や法則を理解します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄		
前	4	第1編 惑星としての地球	・太陽系の中の地球			
	5		・地球の形と大きさ ・地球の構造			
	6	第6編 宇宙の構成	・太陽と恒星 ・宇宙のすがた		・小テスト	
	7	第4編 移り変わる地球	・地層の形成		・中間考査 ・ノートファイル提出	
	8				・古生物の変遷と地球環境	
	9	第2編 活動する地球	・プレートの運動とそれに伴う現象		・期末考査 ・ノートファイル提出	
	前期目標					
	後	10	第3編 大気と海洋		・火山 ・地震と地殻変動	・小テスト
		11			・地球の熱収支 ・大気と海洋の運動	
12		第5編 地球の環境	・環境と人間 ・日本の自然環境	・中間考査 ・ノートファイル提出		
1				・学年末考査		
2						
3						
後期目標						

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。</li> <li>・理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>			
評価の観点	【関・意・態】	地球と取り巻く環境について関心を持ち、主体的に探求しようとする態度を身につけている。		
	【思・判・表】	現在と過去の地球環境に関する自らの考えを持ち、正しく判断し表現する力を身につけている。		
	【技能】	地球環境とその変化について、探求、検証する技術・方策を身につけている。		
	【知・理】	地球と取り巻く環境についての基本的な知識・原理を理解している。		

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	3 学年
教材	教科書	現代保健体育		単位数	3
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 3年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○体力テスト ○体づくり運動 ○体育理論	・シャトルランによる体力診断 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・班づくりと準備体操づくり	
	5	○器械運動 (選択)	・マット運動と跳び箱運動のいずれかを選択し、技能の向上を目指します。	・発表会の実施	
	6		・豊かなスポーツライフの設計	・前期中間考査	
	7	○球技	・ソフトボール (捕、投、打の基本技能を習得し、ゲームを楽しみます。)	・ルールと審判法の習得	
	8	○水泳	・平泳ぎの習得 (大きなストロークで泳ぐ)		
	9	○陸上競技	・長距離走 (トレッキング、ウォーキング、ジョギング)	・強歩記録会の実施 ・前期期末考査	
	前期目標				
	後	10	○球技 ○体育理論	・バスケットボールとバレーボール (チームで作戦を立て、協力し攻守に取り組みます。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
		11			・後期中間考査
12					
1		○スキー	・安全に留意し、マナーを守りスキーを楽しみます。		
2					
3					
後期目標					

評価方法	実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。	
評価の観点	【関意態】	・運動やスポーツに、積極的に取り組んでいるか。
	【思判】	・安全の確保に努め、仲間と協力して運動に取り組んでいるか。
	【知理】	・ルールや審判法について理解しているか。
	【技能】	・個々の基礎体力や各種運動技能が向上しているか。

教科名	外国語	科目名	英語表現 I	学年	3 学年
教材	教科書	New ONE WORLD Expressions I (教育出版)		単位数	3
	副教材	New ONE WORLD Expressions I Workbook (教育出版) 英単語ターゲット1400 (旺文社) Listening Box 1 (啓林館)		履修区分	共通
学習の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。 2 ペア・グループワーク、ALTとの面接や様々な課題などで表現力を高めます。 3 ワークやプリントの提出、発表の機会を通して、学習内容の理解を深めます。				

期 月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4 オリエンテーション L1 My Name Is Matthew Smith	・学習の進め方を説明します。 ・現在形や現在進行形を用いた、自分や友だちを紹介する表現	※各Lessonの終了毎にワークに取り組みます。
	5 L2 I'm Going to Have a Small Party	・未来表現を用いた、未来の計画や予測を表す表現	・小テスト ・プリント
	6 L3 Can You Play Tennis Tomorrow? Expressions in Use 1	・助動詞can, couldを用いた、依頼や許可を表す表現 ・買い物をするときの表現	・中間考查 ・ファイル提出
	7 L4 Have We Met Before? L5 You Must Follow Our School Rules	・過去形・現在完了形で出来事や経験の表現 ・助動詞must, should, mayを用いた、義務や許可を表す表現	・小テスト ・プリント
	8 L6 What a Beautiful Kimono! Expressions in Use 2	・受け身を用いた、事物を説明したり描写したりする表現 ・食事の注文をするときの表現を学習する。	・期末考查 ・ファイル提出
	9 L7 How Was Your Summer Vacation?	・to不定詞や動名詞を用いた、経験・目的・理由を表す表現	
	前期目標		
後	10 L8 I'm Looking for a Smaller Store L9 I Read Comics as Often as I Read Novels	・比較級や最上級を用いた、事物を比較する表現 ・同等比較や倍数比較	
	11 L10 This Is a Book to Read L11 These Are Photos Taken by Her	・前置詞句や不定詞による後置修飾を用いて、説明・描写する表現 ・現在分詞・過去分詞による後置修飾	・小テスト ・プリント
	12 L12 A Partner Who Does Housework L13 You Can Live in a Country Where English Is Spoken	・関係代名詞who, which, thatを用いた事物を詳しく説明・描写する表現 ・関係副詞when, where, whyを用いた表現	・中間考查 ・ファイル提出
	1 L14 If I Were You, I Would Practice Harder than Before L15 If We Continue Using Oil,...	・仮定法過去を用いた、願望を表す表現 ・助言や提案をする表現 ・接続詞を用いた、仮定に基づいて説明する表現	・学年末考查 ・ファイル提出
	2		
	3		
	後期目標		

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考查・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。
評価の観点	【関意態】 積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。 【表現】 事実や意見などを、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えられる。 【理解】 英語を聞いたり読んだりして理解し、情報や考えなどを的確に理解できる。 【知識】 英語やその運用について知識を身に付け、言語の背景にある文化などを理解する。

教科名	芸術 (美術)		科目名	美術研究	学年	3
教材	教科書	なし			単位数	4
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 油彩画の技法について学び、表現や鑑賞の視点を広げ、独自の表現力を身につける。					
	2 絵画の制作活動や鑑賞を通して、西洋文化と日本文化に触れ、感性を高める。					
	3 ポートフォリオ作成をとおして自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 ポートフォリオを作成し、自身のこれまでの制作を振り返り、主題を設定します。					
	2 F100号サイズの油彩画を制作し、自己の表現について発表します。					
	3 名作や自他の作品を鑑賞し、歴史や表現の特質、お互いの良さについて学びます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○オリエンテーション ○構想	・1年間の活動について ・ポートフォリオについて ・キャンパス組み立て	※キャンパスの組み立て、キャンパス張りは一人で行わずお互い協力して行うこと。	
	5	○習作の制作	・資料収集、モチーフ取材 ・習作 (F100号に紙) ・主題設定 ・技法の検討	※資料はインターネットや出版物に頼るのではなく、自分の力で集めること。	
	6	○習作発表 ○本制作	・習作を発表・鑑賞	・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて	
	7		・下描き ・下地づくり ・彩色	・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて	
	8			・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて	
	9			・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて ・鑑賞	
	前期目標				
	後	10	○本制作	・再検討 ・修正	
		11		・細部描込み ・微調整 ・額つけ	
12		○仕上げ	・ポートフォリオ提出 ・卒業制作発表準備		
1		○卒業制作発表準備 ○卒業制作発表		・発表 ・鑑賞	
2					
3					
後期目標					

評価方法	課題提出状況、課題に対する創造力、技術力、授業への意欲・態度、発表内容等により総合的に評価します。		
評価の観点	【関・意・態】	自己の制作に向き合い、意欲的に取り組むことができたか。	
	【発想や構想】	適切な主題を設定し、実現に向けた構想をねることができたか。	
	【創造的技能】	技法や画材の特性を理解し、設定した課題に効果的な表現ができたか。	
	【鑑賞の能力】	自他の表現の意図や工夫を感じ取り、味わうことができたか。	

教科名	美術		科目名	素描	学年	3学年
教材	教科書	なし			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。					
	2 デッサンや鑑賞を通して、感性を高めるとともに、自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 造形表現の基礎であるデッサンを繰り返し行い、技術を身に付ける。					
	2 様々な素材を組み合わせたモチーフをイメージの違いや空間をとらえながら描くことで、表現の方法を学ぶ。					
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○観ること・描くこと	①指導計画と評価を理解する。 ②授業の約束を確認する。 ③道具の扱い等のおさらい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しを持つ。</li> <li>・昨年度購入した道具を引き続き使用する。</li> <li>・線の意味と役割について理解し、表現に活かせるよう、反復が必要です。</li> </ul>
		○線の表現力 (クロッキー) GW中の課題 (見て描く)	①線の種類や意味、描き方の基本を確認する。 ①野菜・くだものを課題とする。	
	期	5	○トーンとタッチ	①表現課題制作と講義により学びます。
○幾何形体 (単純な形) (陰影 (影描法))			①単純な形態を的確に描く能力を身につけます。	
6		○面で描く (対象物の構造) ○空間と関係 (包絡線、空間) ○色とルール (統一感・マチエール)	①複雑な形態を単純な形に置き換えて描く練習を行います。 ①関係の作り方 (大きさ、濃淡、重なり) の基本について、制作課題と講義により学びます。	
	○構図と印象 (パースペクティブ) 夏季休暇中の課題 (身近なモチーフ)	①カメラ (ファインダー) を活用し、構図と印象について理解を深めます。 ①別途指示内容を課題とする。		
8	8	○表現材料 (木炭と鉛筆) ○主題 (何を見つめ、描き、伝えるか)	①描画材料の発達、それぞれの特長について、講義、実習形式で学びます。	
		○組石膏課題	①学んだことを活かし、課題作品の制作を通して総合的に学習する。	
9	9			

評価方法	授業中の取り組みの様子と課題の提出、技術力により総合的に評価する。	
評価の観点	【関・意・態】	素描に関心を持ち、対象に集中して観察し、主体的に表現したか。
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、空間を意識して画面上に構成できたか。
	【技能】	デッサンの基本的な表現技能が身についたか。
	【鑑賞】	自他より感じたことや考えたことを言葉で伝え、制作に活かしたか。

教科名	工芸		科目名	工芸研究	学年	3
教材	教科書	なし			単位数	5
	副教材	なし			履修区分	工芸選択
学習の目標	1 選択工芸科目を含め、学んだ技術を総合的に応用、創造的に発展させた作品の制作を目標とします。					
	2 制作の過程をとおして、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。					
	3 選択教科として密度のある専門性を高めた造形的作品の制作を目指します。					
学習の進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材は個々が設定し、構想と基本的な設計を相談しながら進めていきます。					
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。					
	3 これまでの選択科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション テーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の課題の進め方</li> <li>テーマの設定と計画</li> <li>構想、設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマをどのような手段で達成するかを考える。</li> </ul>	
	5	制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺模型、プロトタイプ</li> <li>プレゼンテーションの準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のテーマが制作物に、どうつながるかを考える。</li> </ul>	
	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション、再検討</li> <li>実制作</li> <li>研究主題のボードの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表をもとに実制作とテーマとのつながり方を確認する。</li> </ul>	
	7				
	8				
	9	中間発表 制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマと制作についての発表</li> <li>進め方の再検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。</li> </ul>	
	前期目標				
	後	10			
		11			
12		1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の完成と提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をまとめることで成果を確認する。</li> </ul>	
1		資料の整理 卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめの制作と提出</li> <li>プレゼンボードの制作と提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との学びを共有する。</li> </ul>	
2					
	3				
後期目標					

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。	
評価の観点	【関・意・態】	テーマの設定と計画をもとに制作を進めることができる。
	【発想・構想】	テーマと繋がるように制作を考えていくことができる。
	【創造的技能】	テーマに対しての技法、表現を深めていける。
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができる。

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	3学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 製図用具・ソフトを活用し、JIS規格に則り図面を作成する能力を養う。				
	2 図面を通して、自分の考えや情報を的確に表現し、伝える力を身につける。				
	3 卒業制作の構想をもとに図面を作成し、制作に向けての検討を行う。				
学習の進め方	1 構想をもとに、卒業制作の図面を作成します。				
	2 実習教科における製材や加工をもとに、改善点や修正点について検討します。				
	3 ポートフォリオやレポートを作成することで更に構想を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション	○年間指導計画・学習の心構え・評価方法について	
	5	図面作成 「卒業制作」	○構想・スケッチ・略図をもとに実際に図面を作成します。	
	6		○ドラフターまたはJw-cadを使用して外観図(第三角法・等角投影法)・部品図を作成します。	
	7			
	8			途中経過図面提出 「卒業制作」
	9			

前期目標	計画的に課題に取り組む。 卒業制作の構想をもとに図面を作成し、制作に向けての検討を行う。
------	---

後	10	図面作成 「卒業制作」		
	11		○ポートフォリオを作成して3年間の制作を振り返ります。	
	12	ポートフォリオ作成 (美術コース) レポート作成 (工芸コース)	○レポートを作成してコンセプトから図面、加工に至る卒業制作に関わる制作過程をまとめます。	完成図面提出 「卒業制作」 完成提出 「レポート」 「ポートフォリオ」
	1			

後期目標	授業の課題(卒業制作図面、レポート、ポートフォリオ)を通して自己の制作を振り返り学習のまとめをする。
------	--

評価方法	図面の途中経過、完成図面の提出、ポートフォリオやレポート作成に至る過程での取り組みにより評価します。
------	--

評価の観点	【関・意・態】	積極的に授業に参加し、意欲的に取り組むことができるか。
	【思・判・表】	見る者に対し解りやすい図面を作成するために適切な表現を行っているか。
	【技能】	これまでに学んだ事を生かし効率的に図面を作成できるか。
	【知・理】	ドラフターやJw-cad、図法について理解し、適切に作図ができるか。

教科名	工芸	科目名	課題研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	6
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 工芸科目を通して学んだ技術を応用し、創造的に発展させた作品制作の力を育てます。				
	2 制作の過程を通し、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き、豊かな人間性を養います。				
学習の進め方	1 1年間をとおした制作の計画を立てます。題材は個々が設定し、工芸制作への知識と理解を深めます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの工芸科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 制作計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の課題の進め方</li> <li>制作に向けた試作と計画</li> <li>構想、設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作課題をどのような手段で達成するかを考える。</li> </ul>
	5	制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺模型、プロトタイプ</li> <li>再検討、実制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作の段取りを把握する。</li> </ul>
	6			
	7			
	8			
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>進め方の再検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。</li> </ul>
前期目標				
後	10			
	11			
	12	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の完成と提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの制作をふりかえることで成果を確認する。</li> </ul>
	1	資料の整理 卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との学びを共有する。</li> </ul>
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。				
評価の観点	【関・意・態】	制作課題の設定と計画をもとに制作を進めることができたか。			
	【発想・構想】	制作課題を自らの意図と繋がるように制作を考えていくことができたか。			
	【創造的技術】	制作課題に対しての技法、表現を深めていったか。			
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか。			